

「わが国における栄養サポートチーム（NST）の活動状況と稼働効果に関する全国調査」

研究計画書

日本学術振興会科学研究費補助金研究事業

研究責任者

藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 教授 東口 高志

事務局

藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座

〒514-1295 三重県津市大鳥町 424-1

TEL 059-252-1555 FAX 059-252-2698

担当 伊藤彰博

調査の概要

1 背景

わが国における少子高齢化は世界の歴史に類を見ない速度で進行し、高齢者医療確立のためにはこれまでの医薬医業を重視した体制では、提供されるべき医療サービスと医療財政の両面から、近い将来破綻する可能性が危惧されている。一方、1998年以降、わが国においても医療における栄養療法の有用性が見直され、栄養評価から始まり経静脈栄養、経腸栄養そして経口栄養などの一貫した栄養管理を病院全体で取り組む栄養サポートチーム(Nutrition Support Team : NST)が脚光を浴びるようになった。NSTは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師や理学・作業療法士、言語聴覚士らが職種を越えて活動するチーム医療のひとつで、病院全体をカバーする横断的組織である。

2001年2月、日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)は学会主導のもと、全科型NSTの導入を支援するNSTプロジェクトを立ち上げた。その活動に後押しされるように、2001年にはわずか十数施設にすぎなかったNST稼働施設は、2005年12月末までの5年足らずの間に684施設にまで増加し、2007年の現在では1,200以上の施設でNSTが活動している。一方、2005年には日本病院機能評価機構の「病院機能評価 Ver. 5」の評価項目の中にNSTの設置がとりあげられ、2006年の診療報酬改正では『栄養管理実施加算』が入院基本料として新設された。このことは、これまで医療のなかで軽視されがちであった栄養管理や栄養療法の意義や有用性が大きく評価されるとともに、栄養管理がわが国の医療の基盤として位置づけられたことを意味するものであった。

このような社会的背景のなか、NSTを稼働する各施設から多くの有用性を示す報告が増加の一途をたどっている。しかしながら、わが国においては多施設でNSTの活動を総括的に評価する取り組みは未だ実施されていないのは現状である。したがって、今回の研究のテーマであるわが国のNST稼働状況や稼働効果を実証することは、将来わが国の医療の方向性を決定する上で不可欠であり、さらに質の高いNST活動をもとにした栄養療法に関するデータベースの作成は、NST活動の普及や栄養療法の進歩に多いに役立つものと考えられる。

2 目的

- (1) 全国に普及する NST の稼働体制や活動内容ならびにその効果を多施設大規模レベルで検索し、わが国における NST 稼働状況とその効果について検討する。
- (2) 調査結果から NST 活動に関するデータベースを作成し、わが国の医療の適正化や発展ならびに NST 活動の普及や栄養療法の進歩に役立てる。

3 調査方法

アンケート調査は、Web 上にて平成 19 年 12 月 25 日～平成 22 年 10 月 31 日の間に計 6 回行う。1 回の調査期間は 6 ヶ月（ただし第 1 回のみは 3 ヶ月）とし、6 回の各調査期間の NST 稼働状況等について回答する。調査への参加回数は、1 回から参加が可能であり、第 1 回～第 6 回のアンケートに連続して回答ができない場合には、参加可能な期間（参加回数は自由）に回答する。

4 対象施設

日本栄養療法推進協議会が認定した「NST 稼働施設」のうち本研究の参加同意が得られた施設とする。

5 調査内容

- (1) 施設概要
 - 1) 施設長名、2) 総病床数、3) 施設分類、4) 病床稼働率、5) 紹介率等
- (2) NST の稼働体制
 - 1) 運営システム、2) 稼働基準、3) NST のチーム構成等
- (3) 栄養管理体制
 - 1) NST 介入患者(栄養不良患者)の抽出システム、2) 抽出症例の栄養評価法（二次スクリーニング）、3) 栄養管理法の選択基準、4) 栄養管理プランニング法等
- (4) NST 活動の稼働評価
 - 1) 栄養管理計画書作成実施率、2) NST の主たる活動内容、3) 教育活動、4) 地域連携活動、5) NST 介入患者数、6) NST 介入による病態改善状況等
- (5) 栄養補給に関すること
 - 1) 栄養剤の選定に関すること、2) 栄養剤の使用状況等
- (6) 在宅栄養療法に関すること
 - 1) 在宅栄養療法に関する指導手法について、2) NST からの情報提供について、3) 栄養指導、服薬指導件数等

6 調査期間ならびに調査予定表

平成19年12月～平成22年10月

【調査予定表】

	アンケート送信	調査期間	回答締切日
第1回調査	平成19年12月25日	平成20年1月1日～3月31日	平成20年5月31日
第2回調査	平成20年3月1日	平成20年4月1日～9月30日	平成20年11月30日
第3回調査	平成20年9月1日	平成20年10月1日～ 平成21年3月31日	平成21年5月31日
第4回調査	平成21年3月1日	平成21年4月1日～9月30日	平成21年11月30日
第5回調査	平成21年9月1日	平成21年10月1日～ 平成22年3月31日	平成22年5月31日
第6回調査	平成22年3月1日	平成22年4月1日～9月30日	平成22年10月31日

7 研究成果の公表

国内外における各種栄養関連学会および学術集会等での発表および論文提出を行う。また、文部科学省のデータベースとして報告する。

調査協力施設には、調査期間終了後に研究報告書を送付する。

8 倫理的配慮

本研究は施設に対するアンケート調査であるので、明らかな患者への不利益は生じないと考えられる。アンケートの回答内容については Web 調査専門機関において専用サーバーを用意し管理することで守秘管理を厳重に行う。各施設のデータは研究事務局で厳密に管理され、各施設のデータが明らかにされることはない。

研究計画を研究参加施設の倫理委員会へ提出し、承認を得る。

【研究者】

研究事業責任者 藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 東口高志
研究者
藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 伊藤彰博
藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 村井美代
藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 森居 純
藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 児玉佳之
藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 二村昭彦
藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座 柴田賢三

【研究事務局】

藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座
〒514-1295 三重県津市大鳥町 424-1
TEL 059-252-1555 FAX 059-252-2698
担当 伊藤彰博

【文献】

- 1) 東口高志、大柳治正、小越章平:わが国における nutrition support team(NST)の現状. 臨床外科 60(5):656~573, 2005.
- 2) 東口高志:NST(Nutrition Support Team)の役割. 日外会誌 105(2):206~212, 2004.
- 3) Higashiguchi T, Yasui M, Bessho S, et al. Effect of Nutrition Support Team based on the New System” Potluck Party Method(PPM)” . Jp J Surg Metabol Nutri 34(1):1-8, 2000.
- 4) 栗井一哉:栄養サポートチーム(NST)発足の経緯. 看護技術 51:59~61, 2005.
- 5) 日本静脈経腸栄養学会・NST プロジェクト実行委員会・東口高志(編), NST プロジェクト・ガイドライン. 医歯薬出版, 2001, 東京.
- 6) 東口高志、大柳治正:NST 稼働施設設定と質の保証. 臨床外科 61(10):1315~1321, 2006.